

三番町共用会議所 一般公開



【 浴 革 】

三番町共用会議所は、明治・大正に活躍した「山縣有朋」邸跡に建てられた国の会議所です。

- 明治14年 (1881年)
4月7日 農商務省設立
- 明治18年 山縣有朋公私邸として竣工。設計者 片山 東熊
洋風建築史に残る建物であった。外部装飾はないが、屋内装飾は暖炉の大理石前飾り大鏡等 外国製の豪華設え。馬車庫、馭者部屋、馬丁部屋等
＊ 建坪(本館)248坪、延坪335坪、付属建物226坪
- 明治18年
10月19日 明治天皇行幸
- 明治18年
11月 行幸記念碑建立
- 明治19年
7月10日 内務大臣兼農商務大臣 就任
就任後、山縣有朋公私邸を国が農商務大臣官舎として購入。
- 大正12年
9月1日 関東大震災により損壊大破。
- 昭和18年 大臣官舎に改築。(17年1月起工～18年10月竣工)
- 昭和20年
5月24日 空襲により、大部分の建物を焼失。再建の目処が立たぬまま放置。
- 昭和27年 旧本館(木造：一部二階建て延坪248坪)竣工
- 昭和29年 別館(現存 RC造 総二階建て 延坪252坪)建築(竣工31年) 設計 大江 宏
- 昭和48年 本館(現存 RC造 総二階建て 延坪631坪)改築
- 昭和55年 庭園(池、東家、散策道、樹木等)の整備
- 昭和56年 農林水産省 100年祭

農林水産省

三番町共用会議所 一般公開マップ

※注意事項及びご協力のお願い

- ・閉門時間15時には完全に退所願います。
- ・参観順路が大変狭いため、カメラ用三脚等の使用はご遠慮ください。
- ・館内には、自販機がございませのでご注意ください。

※ 2階バルコニーは手すりが低いため、柱の内側をお通りください。



- A** トークイベント
「大江建築にみる近代と庭園」
26日(日) 10:00~11:30
- ・法政大学 特任教授、
中央区郷土資料館 館長 陣内 秀信
 - ・法政大学 デザイン工学部 建築学科
教授 小堀 哲夫
 - ・法政大学 デザイン工学部 建築学科
教務助手 内藤 啓太

- B** 和文化体験
(協力:和文化・産業連携振興協議会)
① お茶体験会(抹茶試飲)
25日(土)・26日(日) 13:00~15:00
- ・大日本茶道学会のご協力により開催します。
 - ・提供できる量に限りがあり、早めに終了することがございます。

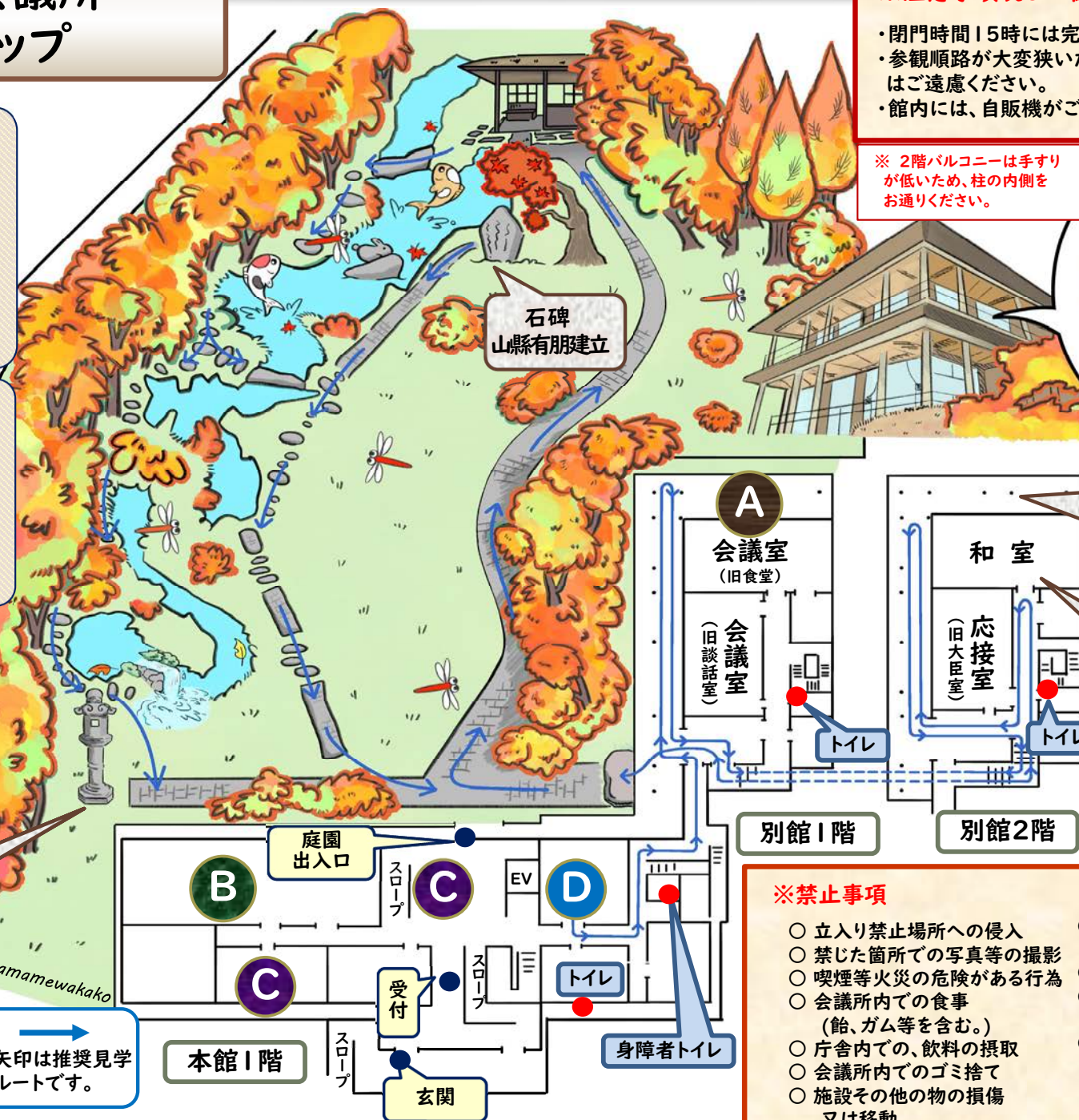
- C** 和文化体験
② 和文化展示コーナー
一葉式いけ花四代目家元
粕谷尚弘氏の作品等を展示

- D** ガイドツアー集合場所
25日(土)・26日(日)
11:30、13:00、14:00

石灯籠
土台が六角形であることから、江戸後期から明治初期の技法を用いられていると考えられ、山縣有朋邸のものが現存していると思われます。

矢印は推奨見学ルートです。

©chamamewakako



<バルコニーの見所!>

- ◆スラブ厚150mmのバルコニーと軒線が描く水平ライン
- ◆リズムカルに並ぶスレンダーな円柱
- ◆板ガラスを使った床の目地

<和室の見所!>

- ◆面と線の複雑な構成を持つ天井
- ◆木の内装によって空間の質を切り替える内廊下

※禁止事項

- 立入り禁止場所への侵入
- 禁じた箇所での写真等の撮影
- 喫煙等火災の危険がある行為
- 会議所内での食事(飴、ガム等を含む。)
- 庁舎内での、飲料の摂取
- 会議所内でのゴミ捨て
- 施設その他の物の損傷又は移動
- 業としての写真及び映画等の撮影
- 集会又は示威行為
- 貼り紙の掲示又はビラ等の配付・散布
- その他秩序又は風紀を乱す行為等、一般公開行事運営上支障があると認められる行為



山縣 有朋
(1838-1922)

幕末から明治、大正に活躍した長州藩出身の軍人であり政治家です。少年時代には吉田松陰が指導した松下村塾に学び、同塾で学んだ高杉晋作が創設した奇兵隊で、「軍監(副隊長)」として倒幕運動に活躍しました。

明治政府では、日本陸軍、地方自治制度、近代官僚制度の構築などに関与し、第3代・第9代内閣総理大臣、枢密院議長、軍人としては陸軍大将(後に元帥)などの要職を歴任しています。

一方で、プライベートでは造園に造詣が深く、築庭構想の名手と評価されています。



大江 宏
(1913-1989)

建築家大江宏は、昭和13(1938)年に、東京帝国大学工学部建築学科を卒業し、三菱地所の建築部技師などを経験して、昭和21年に大江建築事務所を設立しています。

また、教育者として昭和23年法政大学工業専門学校教授、25年法政大学教授に就任しています。法政大学ならびにその関係施設の建築設計を行いインターナショナル・スタイルの一連の作例を発表。

昭和58年には日本の伝統建築を生かした国立能楽堂を設計するなど、独創的な建築家として知られています。

明治天皇行幸碑文概略

今年、十月十九日

今上天皇が有朋の私邸に行幸され、光榮に預かること大である。又、銀杯、貨幣を下賜される。有朋は謹んで来国光の刀一口及び松蔭先生の書二幅献上した。

この日、宴に侍する者は、皇族、内閣諸侯及び武官若干名なり。(陸軍)戸山学校の下士が銃剣技を奏し、宮内官吏等は、刀槍術を演じ、御覧頂いた。饗応の際、夕刻となり陸軍楽隊に演奏させる。夜になり、多くの球燈を点け、煙火を放つ。既に儀仗兵の隊列の準備の知らせが入り、龍旗(錦旗)は宮城に還られた。嗟有朋の幸この上なし。ここに臨幸の始末を記し、併せて二品の由来を録し、将来に伝える。

明治十八年十一月
從三位 伯爵 山縣有朋 謹んで識るす。

碑文和歌

天津かせ

えたをならさぬ

君かよは

こゝろ

のとけく

匂ふ梅かゝ



お問い合わせ先：三番町共用会議所 03-3261-5166

無断で複写複製することを禁じます。

令和5年11月作成